

# 令和元年度第3回総合戦略推進会議 議事要旨

1. 日 時 令和元年8月20日（火）18時30分～20時30分

2. 場 所 市役所10階 第6会議室

3. 出席者 計21名 有識者 10名（欠席5名）  
関係部長 15名

## 4. 議事内容報告（○帯広市 ●委員）

### 1 開会

### 2 会議の進め方について

（説明要旨）

- 第2回会議の振り返りをしつつ、新たな将来展望人口の案 および 総合戦略の各論部分として「今後の取り組みの方向」について、協議を行う。

### 3 第2回会議の振り返り

（説明要旨）

- 全体構成として、第1期からの主な変更点は、「現状と課題」というパートを設けたこと、価値共創プロジェクトについては、総合戦略の体系に組み込んだことにより、廃止とすること等。
- 第1期の取り組みの成果としては、創業・起業支援やアウトドア観光の振興など、仕事づくりや人の流れづくりを中心に取り組みの順調な進捗が図られたほか、子育て世帯向けの相談事業の充実や地域包括ケアシステムの構築など、子育て世代や高齢者が住みよいまちづくりに向けた取り組みが進んだもの。
- 課題は、出生数の改善や定住の促進への効果がまだ見られていないこと、人口減少に伴う課題の解決に向け、中長期的な取り組みが必要となっていること。
- 2018年末の総人口は166,889人。社会動態では、人口ビジョンにおいて、10年間で800人程度の転入超過を見込んでいたが、総合戦略開始後4年間の社会動態は累積でマイナスとなっている。自然動態では、本市の合計特殊出生率は、国と同程度に増加傾向で推移しているものの、2020年の1.60の到達は難しい状況。
- これまでの社会移動の実績をベースに、出生率を維持した場合の推計を行った結果、現在の人口ビジョンの将来展望を、2040年時点で10,000人、2060年時点で17,000人ほど下回る結果となった。
- 自然動態・社会動態が改善すると将来人口にどのような影響を与えるかを分析したところ、社会動態の改善より、自然動態の改善による影響が大きいことがわかった。長期的には、出生率を改善していくことが重要。
- 本市としては、これまでの取り組みの課題や人口の動向を踏まえ、人口減少の抑制

に注力していく考えを持ちながらも、人口が減った社会でも快適に暮らすために適応していくことや、人口減少や人口構成の変化を課題解決に結びつけるなどの視点で取り組みを推進していく必要があると考えている。

- めざす姿としては、地域の強みを活かすこと、管内の結びつきの強さを活かすこと、この2点を基盤として、「住みたい・住み続けたいまち」、「十勝・帯広の魅力に共感した人々が、訪れ、集まり、共鳴するまち」を設定。移住・定住や、交流人口・関係人口を意識するなど、より人口対策に特化した目標としている。
- 4つの基本目標に係る基本的方向については、大枠の考え方として、大きな変更はないが、基本目標4では、性別・年齢・国籍・障害の有無によらず、誰もが活躍できるという考えを新たに追加している。

(質疑応答)

- 特になし。

#### 4 協議題

##### (1) 新たな将来展望人口(案)について

(説明要旨)

- 国から、地域の実情や最新のデータを踏まえて、各自治体の人口ビジョンを改訂するよう通知があったもの。
- 出生率の仮定は、現ビジョンを5年遅れで達成することとしている。社会移動は、プラス部分を2割伸ばし、マイナス部分を2割改善する考えとしている。
- 将来展望人口は、過去実績ベースの推計に比べ、2065年時点で約2万人増加する計算になる。また、国の研究機関の試算を下回るものの、出生率が改善していることから2060年で逆転することとなります。現在の人口ビジョンに対しては、出生率を5年遅れとしているため、若干下回っているものの、ほぼ同程度で推移していくこととなる。
- 高齢化率は、2050年時点をピークに減少していくこととなる。
- 年齢3区分別人口は、過去実績ベースの推計に比べ、2065年時点で、年少人口で13%の減少、生産年齢人口で40%の減少まで抑えることができる。

(質疑応答)

- 人口推計のシミュレーションについて、数字を変える根拠がわからない。また、出生率を上げるという点について、十勝・帯広で出生率を上げるための方策が書かれていない。もう一つ、人口を増やす、もしくは現状維持にする根底には経済があると思っている。その中で、この会議と産業振興会議の連携の部分が見えない。
- 合計特殊出生率2.07が今の人口を維持していくために必要な水準であり、全国的な目標でもある。2020年の1.60は、バブル崩壊前の数字で、ここ30年ぐらい達していない。現状1.42のため、あと1年で実現するのは難しいと判断した。  
帯広市で実施した子育てに関するアンケートでは、子どもがいる夫婦には、平均で2人子どもが生まれている。また、どれぐらい子供が欲しいかという質問には2.5人という回答をいただいている。2人あるいは2人以上欲しいという希望がある状況。

多少スケジュールが遅れても、子供が欲しいという希望をかなえていくことが必要と  
考え、来年 1.60 は難しいが、早期に出生率を改善したいと考え、現ビジョンの 5 年  
遅れに設定したもの。

移動では、札幌や東京への転出超過、特に若い世代の転出により社会動態がマイナ  
スとなっている。雇用環境、特に賃金の差が人手不足につながってきている。現ビジ  
ョンで、10 年で 800 人の転入超過を展望するものの、現在、この半数が管内の町村  
からの転入超過であり、町村の人口減少が急速に進行している状況を鑑みると、これ  
が維持できなくなる。町村の人口が減り、町村の活力が下がれば、帯広の発展にも影  
響する。従って、10 年で 800 人を維持していくのは、妥当ではないと判断している。  
仮定としては、若年男性など、転入超過になっている部分は増やし、若年女性など、  
転出超過になっている部分は抑制することで、札幌や東京への転出超過を減らす。10  
年で 100~150 人程度の転入超過を目指していく考え。

また、出生率が上がらない理由として、結婚した方の出生数はむしろ改善してきて  
いるため、結婚する方が減っているということが考えられる。結婚を希望していても  
できない、あるいは結婚したくないという様々な考え方があがるが、結婚を希望してい  
るができない状況があるとすれば、それは社会を挙げて、できる環境を作るというこ  
とが大事。総合戦略の中でどこまで具体化できるかが今後の課題。

産業振興会議に限らず、各分野で策定している計画の会議の中にも、現在参加して  
いる市のメンバーが加わって、議論を行っている。例えば産業振興そのものを総合戦  
略の中で目指していくことではなく、それが、人口にどう影響してくるかという視点  
でこれからの取り組みを考えるとということが、この会議あるいは総合戦略の役目だと  
考えている。この部分でそれぞれの分野の会議あるいは計画とこの総合戦略の視点が  
若干異なってくることをご理解いただきたい。(事務局)

- 平均寿命の考え方が、ここにどう反映されているのか。一定でやっているのか、そ  
れとも若干の変化をつけているのか。
- 人口推計の場合は死亡率を使っているが、これは国立社会保障・人口問題研究所の  
専門的な数字をそのまま用いている。その中で、平均寿命が延びるような形で設定さ  
れていると理解しており、若干平均寿命が延びていくような推計になっている。(事  
務局)

## (2) 第 2 期帯広市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子 (イメージ) について (説明要旨)

- 前回会議からの変更点として、基本目標 4 について、「快適なまちをつくる」を「い  
きいきと暮らせるまちをつくる」に変更している。第 2 期では基本目標 4 の、誰もが  
「いきいきと暮らせる」「活躍する」という点がポイントとなるため、これを分かり  
やすくお伝えるため、変更したもの。
- 「新たな仕事を創り出す」では、先進農業の推進や、輸出の促進、生産・加工・流  
通・販売における食の高付加価値化といった、地域資源を活かした産業振興を進める。  
また、創業・起業支援や、地元企業の経営基盤の強化支援、企業集積の促進といった、  
地域産業の競争力強化を進める。さらに、学校教育や高等学校段階まで対象にした次  
世代の担い手の育成や、地域産業を牽引するリーダー人材の育成といった、産業人の

育成に取り組む。

- 「十勝・帯広への『ひと』の流れをつくる」では、ふるさと教育の推進や、移住支援といった移住・定住の促進を進める。また、アウトドアなど体験・滞在型観光の推進や、スポーツ・コンベンションを通じた交流機会の創出といった、地域特性を活かした十勝観光の展開を進める。
- 「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」では、男女共同参画の推進や、働きやすい環境づくりの促進といった仕事と生活の調和の促進を進める。また、子育て支援のさらなる充実や、地域・家庭・学校の連携等による教育環境の充実を図る。
- 「安全安心でいきいきと暮らせるまちをつくる」では、町内会など地域コミュニティへの支援や、女性・高齢者・障害者・外国人など多様な主体の社会参画の促進といった、コミュニティの活性化を進める。また、中心市街地の活性化、地域公共交通の確保、地域防災力の強化、循環型社会の形成、公共施設や空家など既存ストックの適正管理等の推進といった良好な生活環境の確保に取り組む。さらに、高齢者・障害者・外国人の日常生活への支援に取り組み、誰もが暮らしやすい地域づくりの推進を進める。

#### (意見交換)

- 総合戦略には、高齢者の次のキャリアや、知識を活かした今後の取り組みが少ないように感じる。5年の計画ではあるが、40年とか長期の視点でみることも必要。  
物があふれている中で、人の価値は多様化してきており、様々な観点があるという事を計画に落としこめると、こういう考え方も許されているんだ、と一般の方が読んでもわかりやすい計画になってくる。そういう寄り添った計画になっていけばよい。
- 高校の修学旅行で本州からきて農業体験をしている子たちがいる。こうした子のうち、畜大に進学して、農家アルバイトとして来てくれる子もいる。農家の働き手が少なくなってきた中、彼らに大変助けられている。帯広市にもこうした取り組みについて何か考えていただければ。  
昔は、農家の後継者の嫁さがしとして本州に行くことがあった。最近はそうした動きもなくなってきた。募集みたいな感じで帯広のほうでも考えて頂けると助かる。
- 創業・起業の支援や経営基盤の強化は、誰がやるのか、という所が明確でない。誰が、というのを想定し、あるいは行政側で出来る事はこういうこと、という現実的な議論としてはそこをやっておいた方がよい。企業集積の促進は漠然としていてわかりづらい。工業団地を埋めればよいという単純な問題ではなく、どんな企業に来てもらいたいのか、誘致するために何をすることが見えない。また、創業・起業支援には波がある。セミナーに集まる人の数が減ってきている。取り組み自体が低下したわけではないが、理由は不明。不動産は増えているが、サービス業・商工業の創業数は実質減っている。創業・起業、経営基盤の強化ともに、原案ではもう少し細かく落とした方がよい。
- 基本はやはり経済。まずは仕事をつくること。移住・定住は安定した収入が無ければダメ。結婚・出産でも、結婚したいけど現在の収入では養っていけないとつながる。昨今、中間層がいなくなり、貧富の差が広がっている。そこをどう埋めるのかという視点が必要。

北海道内の企業のうち 75%は後継者がいない。全国平均は 66%。そこでの企業支援も当然必要。具体的な支援は、市だけではできない。子供達もしくは従業員に社長を譲らないで辞めると考えている企業が非常に多いという事を認識すべき。また、十勝・帯広は観光に力を入れてきてなかったなと感じている。他都市に比べても少し弱い。何をメインにするか、というところを分かりやすくした方が外部に向けてアピール出来る。

- 取り組みの基本方針の中で、基本目標と今後の取り組みの方向が、実質同じ文言が並んでいる。第 1 期もそのようになっているが、目標と取り組む方向性で同じことが書かれていて違和感がある。
- 地域づくりの中で経済の重要性は認識している。新たな仕事をつくる、人の流れをつくる、中心市街地の活性化など、商工観光部でもかなりのウエイトを占めていると認識。人の流れづくりで、観光の出遅れ感といった話があったが、帯広には夜景も運河もない中で、逆にそれが北海道らしい景色という強みがある。また、大自然という部分でも伸びしろがあると捉えている。観光は伸びる要素を持っており、取り組み方次第では化ける可能性がある。即物的な観光資源ではなくて、内容を楽しんでいただくという部分で取り組み方があるのかなと考えている。(商工観光部長)
- 農業体験の受入れについては、高校生の受入れをずっとやってきた。また、大学生・社会人の受入れは 3 年間地域おこし協力隊が中心になってインターンシップという形で東京や大阪を中心に実施している。来た方が十勝に関心を持ち、畜大に来る方もいるし、収穫体験の時期になると手伝いにきてくれる方もいる。こうしたことで関係人口の拡大につながっている。農業者の人口はこれから減っていくが、ICTを活用した農業機械を導入し、カバーしていこうと考えている。今後海外からモノが入ってくるので、しっかり守っていく取り組みと、外にも出て行こうとする取り組みによって、農業を強くし、その周辺が広がっていけばと考えている。(農政部長)
- 人口が減っていく中で、いろんな方がまちづくりに関わる事ができれば活力ある地域をつくることにつながる。多様な主体の社会参画の促進と書いているが、例えば、大学生のまちづくりの参加、高齢者の就労支援、女性の活躍の促進などを想定している。あるいは、外国人にもまちづくりに参画していただくようなことがあればコミュニティの活性化にもつながる。現在、柔軟な働き方を求めている方が増えてきていて、副業など幅広い働き方ができるような環境をつくっていくことも、人口が減る中では大事な視点。主体性のある方が活躍できるような地域をつくっていくという事も地方創生の鍵。

それと、ふるさと教育で、小中高ということはあるが、現在畜産大学でとかち学という地元について学ぶ授業を進めていて、ここに様々な地域の機関が協力している。こうした取り組みにより、地域への愛着とか、将来住みたいと思う気持ちを高めていくようなことも重要になってくると思っており、原案の中で具体的にしていきたい。

基本目標と今後の方向については、ご指摘のとおり。整理していく。(事務局)

- 関係人口とかファンづくりの部分の柱がどこに入ってくるのかと見ていた。取り組み項目の所にきちんとみえる形のほうがいいのかと思った。

若年男性の方の転入者は 2 割増、若年女性の転出を 2 割抑制するという考えがおもしろいと思った。年齢までターゲットを絞るなら、取り組みとしてもここをターゲット

トに絞ってやっていくと見えるようにすると、新しいものができると思う。

- 今ある仕事の何%の業種が今後残っていくのか、なくなるというより形態が変わっていくのか、IOTとかAIがこれから進行したときに相当変わる。そんな中で、十勝・帯広はこれからこうやって生き残っていくという部分を、キャッチコピーにして頭の中にきっちり描いて、議論しないと情報発信のしようがない。やることはいっぱいある。ただ、きっちりターゲットを絞ってターゲットにあった情報をやるべき。幕の内弁当みたいな情報発信では、誰も見向きもしない。十勝・帯広がどうやって生き残って将来地域づくり・まちづくりをしていくのかっていう、見方を確定させることが必要。ターゲットを絞った戦略・戦術を組んでいかないといけない。

経済も地域も新たな形態になってくる。それを上手くコーディネートする人を引っぱってこないで、暗中模索の中で、無駄な時間を過ごす。色々な所で新しい形態に関わるコーディネーターの存在が必要。

- 十勝観光の展開とあるが、スマートフォンによる影響が大きい。最近の若い人は観光する先をインターネットのSNSを使って簡単に調べたりしている。若い人が、ハッシュタグをつけていろいろ調べたりする時代なので、十勝の魅力の発信にそういうのもありなのかな、と思う。

企業の誘致もそうだが、帯広から若い人が出て行くのは大学が少ないからと感じている。

- 就職する時は本人の意思決定。その前の決定の仕方がどこにあるのか考えてみると、コミュニティが大きな判断になると思う。暮らしやすいからここに就職しよう、仕事しようということがひとつの要素として出てくる。地域コミュニティがどうなってるのか、というのを考えて行く必要がある。町内会の加入率が下がっているが、今の町内会は老人の集まりだから私達の家庭はもう関係ないよね、という人が多い。今仕事だから忙しいからそういうのをやっている暇がない、これも多い。こうした環境の中で、仕事もやるが、じゃあ潤いのある生活はどうするかっていう事もできていない。東川とか上士幌の人口が増えているのは、子供を育てやすいという環境が大きい。若い人と高齢者をどうやってつなげるか。そのひとつの要素としてコミュニティ・スクールがある。高齢者と若い人とをつなげる要素になると思っている。そういう人間関係をつくっていくことが大事。もうひとつ、リタイアした人がいかに地域で活動していくかということが大事。そういう人は人生豊かだから、学校とか地域活動に貢献していく事が住みやすいまちづくりになると思う。

- 基本目標や取り組み項目に書かれている内容はこのとおりだと思う。ただ、これは戦略なのかと。帯広市は人口問題を考えた時に戦略的にどうやっていくのか。特徴というか、起爆剤となる様な取り組みもこの中に入れていくべき。例えば、ぜひ市役所がモデルになって欲しいと思うが、女性職員が子育てをしながら働く、何処かの市議会じゃないが、子供が職場にいて、子育てしながら市役所では仕事やっているよ。そうした面白いモデルというか、話題提供をしながら取り組むと、そんなに難しいことをやらないでも、ちょっとした話題づくりで人を呼ぶことにつながる。帯広市に住んでみたいと思わせる話題提供をしながら取り組むことも必要。市役所が取り組んでいる事を情報発信するのは非常に重要。

- 住んでいる人が安心して暮らせる、というのは当然大きな要素。若い人と年配の方

の接点は大事なところ。考えているのは、子供を中心にするというような取り組みは重要だということ。地域の企業、団体、NPO、ボランティア、こうしたところも一緒に動いていくことも必要。

女性の活躍という意味では、市役所としてやれることは周知啓発になると思う。それぞれの企業の体力もあるので、こうなさいというのは難しいが、市役所がモデルとして進んでいくというようなことも検討して進めていかなければダメだと考えている。(市民活動部長)

- 子育ては、第1に保護者。そして、行政。そして社会全体ということでやっていきたいと思っている。三世帯同居世帯が少なくなっている現状の中でそういった力も借りながら、帯広市全体でいい子育てができるような取り組みをやっていこうと思っている。子ども・子育て会議には、経済界、地域、保護者の代表も参加して、子ども子育てに関する計画をつくっているところ。今日の意見も踏まえ、検討を進めていく。(こども未来部長)
- 高齢者にどうやって主体となってまちづくりに参加していただくか、仕事をしたいという思いのある方にどうやって仕事を切り出していくか、障害者が地域でどう活躍していくか、市民の皆さんと行政で考えていけたらなと思って、計画策定を進めている。特に地域福祉の関連だが、いろんな方々がいろんな形で参加する方法はどうあるのか。例えば老人クラブ、町内会というところも、少しずつ参加される方が減少している。いろんな繋がりがあっていいのではないかと、市民活動部とも話はしている。みなさんのご意見をいただきながらやっていきたい。誰がやるのかということも明確にしながら取り組みを進める視点はとても大事。主語は誰か、市民、行政、企業、主語を明確することにも留意して取り組んでまいりたい。(保健福祉部長)
- ふるさと教育として、将来どうやって十勝・帯広に住んでいただけるかを考えている。コミュニティ・スクールが地域コミュニティの活性化につながってくるという意見があった。今年度から3か年ですべての小中学校のエリア、更に南商業高等学校も含めて、このコミュニティ・スクールという取り組みを進めていこうと考えている。その中で、地域コミュニティの活性化に寄与していきたい。(学校教育部長)
- 市の職員の中で女性が最近増えており、全体でいうと3割ぐらいになっている。受験する方も半分近くが女性というような状況で、当然お子さんを産みたいという職員も増えてきている。例えば、市役所の中に保育所を作ったら、というような話は、職員確保の面でも非常にPRポイントになると思う。また、定年後再任用の職員はいるが、そのキャリアをどう活かしていくのかということからは課題でもあり、ある意味市役所が十勝・帯広の縮図みたいなのところもあると感じている。様々課題はあるが、そういった発想も一つの考え方かと思っている。(総務部長)
- 大学については、米沢市長になってから地元の大学の充実を目指そうということで方針転換している。現在、帯広畜産大学と小樽商科大学、北見工業大学の3大学統合という話が進んでいて、具体の検討もしているところ。その中で、農業と商業と工業という持ち味の異なる大学が統合するので、連携した教育ができないか、あるいはそれぞれのキャンパスの学生が行き来するような動きができないか議論している。行政も議論に参加して、地域の高等教育の充実につながるよう議論を深めている。

ファンづくりについては、取り組みの柱でひとつの取り組みに限定するより、めざ

す姿の中でしっかり位置づけしている。創業・起業、大学生のまちづくり参加など、関係人口に反映させる形でどう整理ができるかということこれから考えていきたい。

地域の強みを活かすということと、管内の結び付きの強さを活かすということ、抽象的だが、ここはやはり十勝の強みだと思っている。現総合戦略の中でも、都市と自然の価値共創～フードバレーとかち～というキャッチフレーズを掲げているが、原案に向けて整理をしていく中で、どういう事を通して住みたい、住み続けたいまちを実現していくのか、あるいは共鳴していくまちを作っていくのか、分かりやすい言葉で整理していく必要があると思っている。この地域にないものを求めてないものねだりをするという事では無く、やはり培ってきている農業であり、広域の結びつきであり、人のつながり、そうしたものを活かしていく先に十勝・帯広の発展があると思っている。きちんと言葉として表現していくということが大事であるため、原案に向けて色々ご意見をいただきながら整理をしたい。(事務局)

- 帯広以外の周辺町村が疲弊して、帯広が生き残ることは無いという点は、同じ意見だが、この中に広域連携という言葉が入っている。消防の話は入っているが、総合戦略における町村との広域連携の問題意識は、ベースは人口だと思っている。地方の人口減少はひどい状況なので、それに対して帯広市がやるべきこと、都市帯広の役割に対する議論の資料が全くないので、そこをどう考えているか聞きたい。
- 人口ビジョンの中では、十勝の人口がどうなっているのかを記述しており、4年間の動きを踏まえ、時点更新を行う。その中では、社人研の推計にも触れ、これが続けば帯広の発展にも影響してくるという視点は人口の動きとして入れたいと思っている。具体的にどう取り組むかは総合戦略の役割であり、あらゆる取り組みを広域連携という視点で結んでいかなければならないと考え、現在の戦略の取り組みの柱の一つから、めざす姿まで昇格させた。帯広市の役割として大きいのは、経済・医療・福祉という機能を持っており、周辺町村に住んでいる方が自分の町に大きな商店や病院などがなくても、1時間なり1時間半圏内の帯広に来ることで、必要なサービスを受けられる、そういう中心市としての役割は非常に大きいと思っている。経済においても、町村で作ったものを、帯広で加工して、流通させていくという役割を持っている。そのあたりは、フードバレーとかちの取り組みの中で記述をしていく。医療・福祉については、安全安心にいきいきと暮らせるまちの中で、中心市としてこういう機能を持つということが、十勝全体が安心して暮らせる地域になっていくために必要だという意識で記載したいと思っている。具体的に書けるかはこれから検討していく。めざす姿に昇格しつつ、具体的に取り組みの中でよりいっそう広域連携の視点を入れていきたいという思いで整理していきたい。(事務局)
- 補足だが、現在、人口ビジョンに加え、定住自立圏、総合計画という10年の計画をつくっている。定住自立圏はオール十勝の計画。十勝をどうするか、どういったまちづくりをしていくのかということは、市長も同じ考えを持っている。総合計画をビジネスプランとして、帯広市はこういうまちづくりをしていくというものを示し、それに共感を持ってもらえるような計画にしたいと考えている。まちづくりの全体像は総合計画の中でキャッチコピーとともに示す。十勝圏の生活をどうしていくのかという議論は、十勝定住自立圏でも首長レベルで会議を行い議論していく予定。(副座長)



5 その他

- 事務局より今後の会議スケジュールについて説明。

6 閉会

以上